

植物防疫所の病害虫同定診断業務

植物防疫所では、1996年に植物防疫官の職名を植物検疫官・調査官・同定官に再編し、病害虫の同定や同定技術の普及を主たる業務とする同定官を発足させた。これは、急増する輸入植物とその品目や産地の多様化に伴って、そこで発見される病害虫の的確かつ迅速な同定が急務となってきたためである。

発足当初、同定官は全国で14名の体制でスタートしたが、2002年4月現在、横浜と神戸の各植物防疫所に同定官の本所窓口として「病害虫同定診断担当」を置き、全国で40名の同定官が配置されている。

同定依頼は植物防疫所の現場からのものが圧倒的に多いが、消費者、輸入関係者、保健所から持ち込まれるものもある。特に、食品への異

物混入が世間の大きな関心事項となつてからは、菓子などに混入した昆虫の同定依頼も多い。都道府県関係者からの依頼の中心は、我が国が侵入を警戒している病害虫やその類似種である。また、1997年から病害虫防除所職員等中央研修の講師を植物防疫所が一部担当しているが、そこで行った講習分野(ハモグリバエ、アザミウマなど)の依頼件数も多いように思われる。

新たに発生したと思われる病害虫の防除には、まず病害虫の種類を特定することが重要である。同定に関して都道府県のお役に立てる分野もあるので、見慣れない病害虫を発見したら、最寄りの植物防疫所にご一報いただきたい。

海外のニュース EPPOのモモミバエ侵入に対する対策

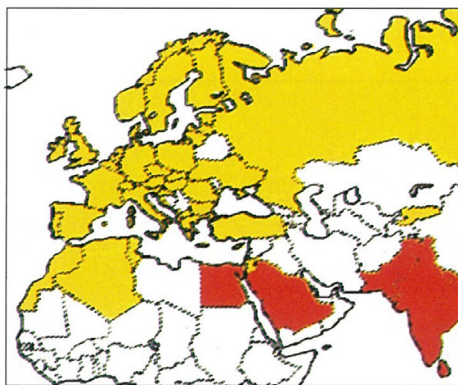
モモミバエ *Bactrocera zonata* (Saunders) はベトナム、タイ、インド、スリランカなど南アジア地域を中心に分布し、リンゴ、ナシ、パイナップル及びかんきつ類など50種以上の生果実を加害する害虫である(本誌第49号参照)。

近年、その分布は拡大傾向にあり、マンゴウやモモなどの重要害虫としてその侵入を警戒しているEPPO(ヨーロッパ地中海地域植物防疫機関)の周辺国でも、侵入がみられた。

このため、EPPOは国際原子力機関(IAEA)や国連食糧農業機関(FAO)の協力によりモモミバエの撲滅と分布拡大防止対策を開始した。EPPOは、2002年に開催した対策会議でIAEAが作成した防除のための行動計画により、侵入の危険性のある国々に対し、①国内の適切な場所への侵入警戒用トラップの設置、②誘引剤、誘殺トラップ、殺虫剤及び背負式散布器等必要な

資材の購入、③関係者の同定研修の実施等行動計画の実行を勧告した。

(参考: http://www.eppo.org/QUARANTINE/bactrocera_zonata/bactrocera.html)



EPPO加盟国(黄)、モモミバエ発生国(赤)



モモミバエの成虫

発行所 横浜植物防疫所
〒231-0003 横浜市中区北仲通5-57 横浜第二合同庁舎 ☎(045)211-7155
発行人 森田 健二
編集責任者 高山 睦雄
印刷所 内村印刷株式会社